

## I 実態調査の結果(対象:56医療機関 回答:53医療機関 回収率:94.6%)

### 1 乳がん超音波検査の実施体制



体制ありのみ回答  
**49機関**

### 2 日本乳がん検診精度管理中央機構(以下「精中機構」という。)等が主催した研修の受講状況

	(1) 精中機構またはJABTS※1主催の超音波講習会の受講者		(2) (1)の受講者のうち評価B以上の受講者	
医師	いる※2 38人/23機関	いない 26機関	いる 31人/19機関	いない 30機関
コメディカル	いる 61人/22機関	いない 27機関	いる 50人/19機関	いない 30機関

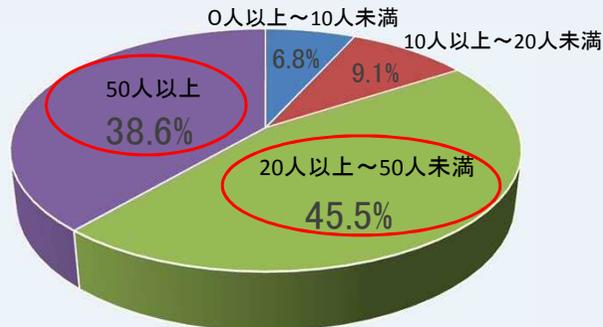
※1 The Japan Association of Breast and Thyroid Sonologyの略。日本乳腺甲状腺超音波医学会。

※2 精中機構及びJABTS主催の研修を両方受講した者を含む。

### 3 乳がん超音波検査の実施希望



### 4 1か月間で対応できる乳がん超音波検査の受診者数



### 5 研修会(本市主催)の受講希望人数

研修希望	研修希望
医師	コメディカル
61人/30機関	175人/36機関

## II まとめ

- 札幌市乳がん検診を行っている医療機関のうち、約9割の医療機関が乳がん超音波検査を行っている。
- 精中機構等が主催した講習会を受講した医療従事者は医療機関に一人もいない場合もある。
- 約9割の医療機関が、乳がん超音波検査の実施を希望している。
- 1か月間で対応できる乳がん超音波検査の受診者数として、20人以上と回答した医療機関は84.1%であった。
- 本市主催の研修会を希望する医師は61人、コメディカルは175人であった。

## III 今後の方針

- 精中機構等が主催した研修会を受講した医療従事者は少ないことから、超音波検査を導入する場合、定期的に研修を開催する必要がある。
- 研修は、対象(医師及びコメディカル)によって内容や開催回数を変える必要がある。